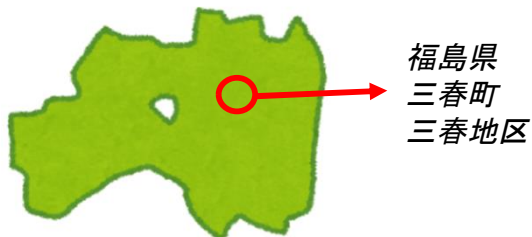


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(30年度:計画作成主体:三春町地域農業再生協議会)(福島県)

取組の概要

- 対象品目 : 野菜(ピーマン)
(産地面積7.4ha)
- 主な取組主体 : 福島さくら農業協同組合
- 成果目標 : 販売額の10%以上の増加
基準(H28年度) 137,950千円
目標(R2年度) 153,995千円
- 導入施設等 : 生産支援事業
(コンピユータスケール、自動かん水設備のリース導入)



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

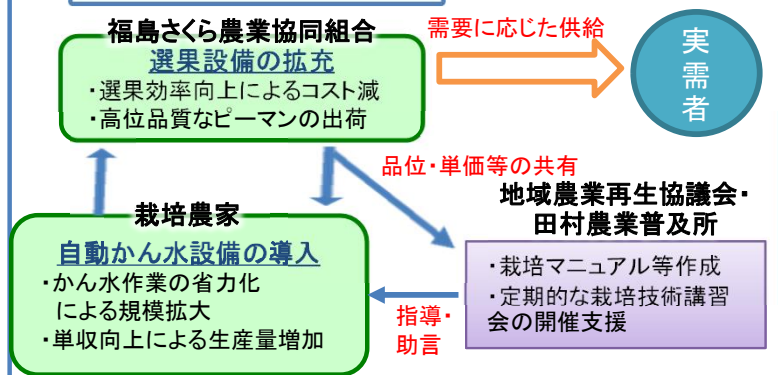
三春町では露地の夏秋野菜栽培が盛んで、特にピーマンは主力品目として生産に力を入れている。しかし近年の夏季の高温傾向に対し、高齢化によりかん水作業が負担になっていること、電源のとれないほ場が多くかん水設備の導入が進まないことから水不足になり、草勢低下や生理障害等の発生から収量の減少を引き起こしている。

そこでソーラーパネルを使用した自動かん水設備を導入し、生産規模の拡大と生産量の増加を図る。併せて共同選果設備にコンピユータスケールを導入し、選果効率の向上と高品質化を図ることを通じて販売額の増加を目指す。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ①電源のとれないほ場での自動かん水化に必要な設備導入支援
- ②選果効率の向上と高位品質化を図るための共同選果設備(コンピユータスケール)の拡充

産地体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・防除暦、かん水マニュアル等の栽培マニュアル作成
- ・定期的な栽培技術講習会の開催
- ・町やJA事業による自動かん水設備への助成

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①自動かん水化による単収向上
- ②選果効率向上によるコスト節減効果
- ③栽培マニュアル等の作成による品質向上効果

【事業実施による間接効果】

- ①事業後も産地での自動かん水設備の導入が進む波及効果
- ②高品質化による販売単価の向上



販売額が12%増加
(達成率101%)

目標値
153,995千円

154,208千円

137,950千円

H28
(基準年)

R2
(目標年)

実績値(販売額)